町長室からこんにちは

No.79

一宮町長
馬淵 昌也

先日、レイ・ラインに関する企画について、お話を伺いました。その企画を立てている方は、富士宮市の浅間神社で、富士山の絵画と詩歌を組み合わせた作品展を催しているそうです。今後、富士山と玉前神社がレイ・ラインでつながる縁をふまえて、玉前神社とも協力関係を結んで、富士山−玉前の合同の企画を考えてゆきたい、とのお話でした。

わたくしは、たいへん面白いお話だと感じました。レイ・ラインのことは、最近玉前神社からも様々な発信があるので、大分知られてきたかもしれませんが、そのラインに連なる地点が一緒になにかをする、というのは聞いたことがなかったからです。

そもそも、レイ・ラインとはなんでしょうか。古代遺跡などが、よく見ると一直線上に並ぶ現象があることを呼ぶ英語の単語だそうです。今回の企画に関わるレイ・ラインは、春分・秋分の日の日の出時に、玉前さまを東端に、寒川神社、富士山、七面山、竹生島、大山、そして西端に出雲大社が、東西に一直線上に並ぶラインのことです。

確かに、昔の人が春分秋分に太陽が出てくる方角に意味を見出して、それぞれに祈りの場を設けたというのは、理解できることでしょう。しかし、そのライン上の各ポイントが、お互いを意識していたか否かははっきりしません。まして、互いに離れていながら、各ポイントが協力して何かをするというのはこれまで聞いたことがありません。そこで、今回のお話は、新しい一宮町の盛り上げにつながるかもしれない、と興味をそそられたわけです。

町の職員諸君の話では、レイ・ラインについて話題提起をされていた一宮町の先達に、元町会議員の秦聖佑氏がいらっしゃったそうです。古い議事録を調べたところ、1988年の議会で、秦氏がそのことに触れながら一般質問をされていたことを確認しました。秦氏は、叙勲の栄に浴された上で、残念ながら先般ご逝去になられましたが、30年以上の時を経て再びこの話題が盛り上がりつつあることに驚嘆の念を起こさざるを得ません。新たな一宮町盛り上げの柱の一つになることに期待いたします。